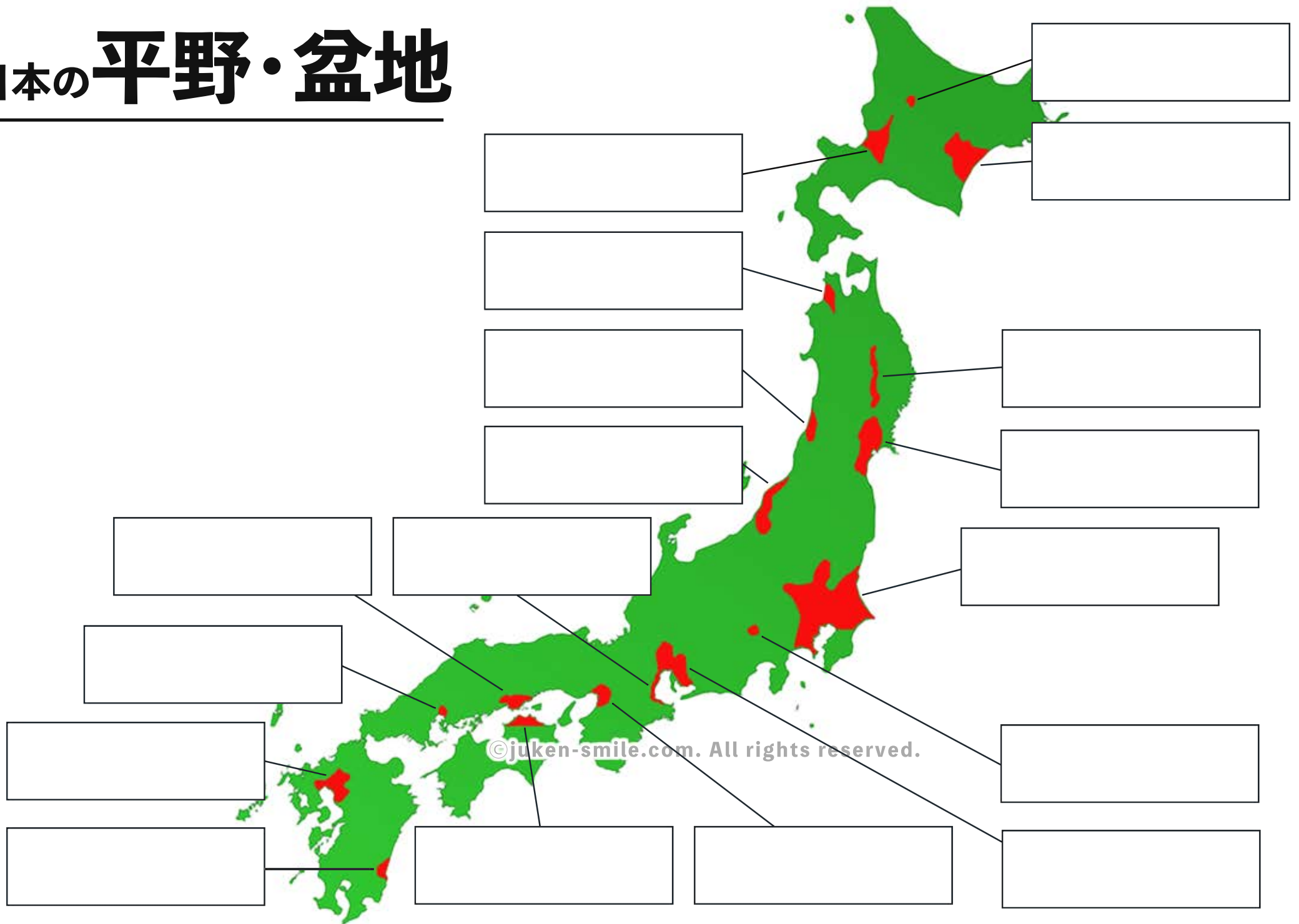
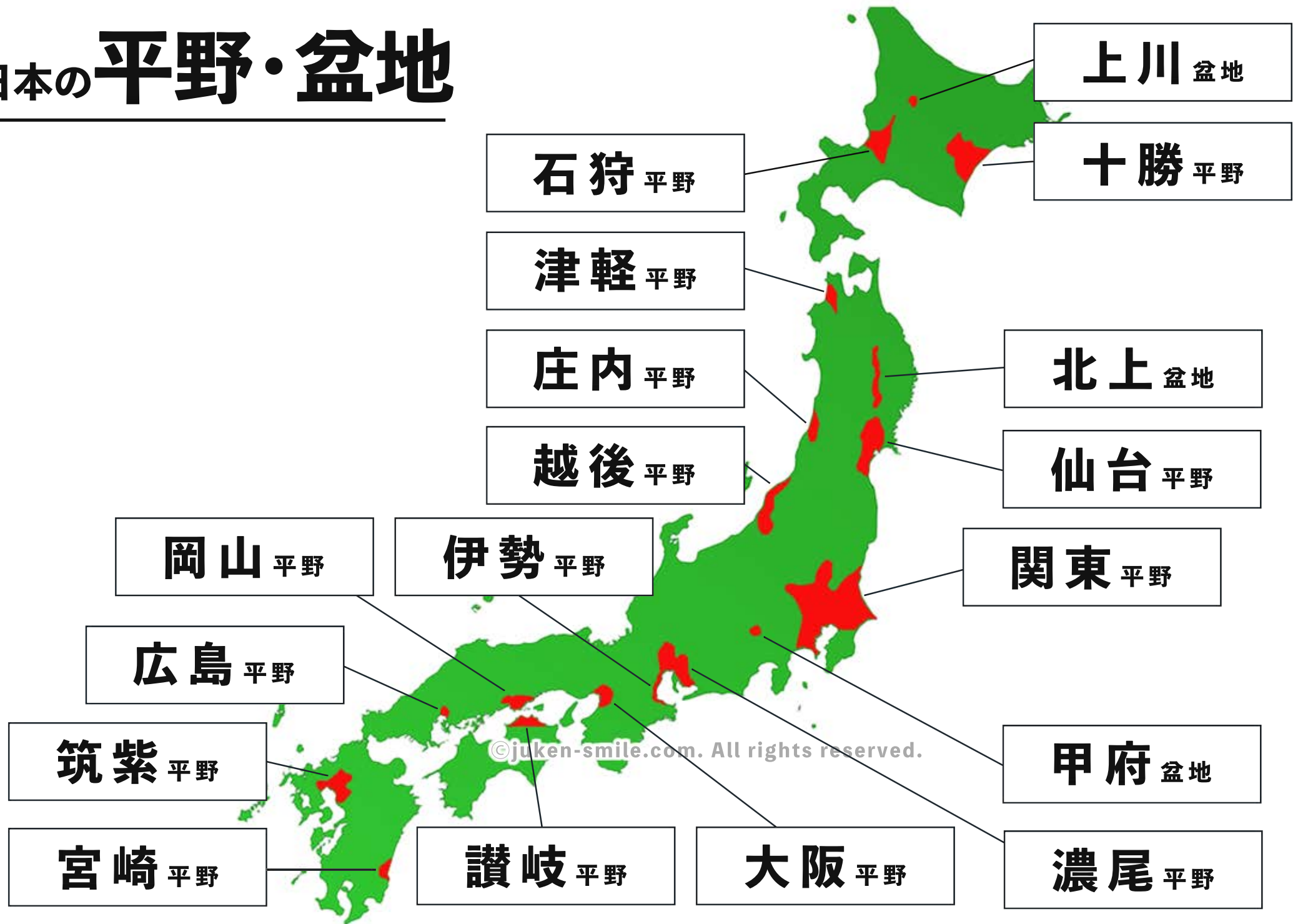


日本の平野・盆地



日本の平野・盆地



日本の平野・盆地について

1. 日本の主要な平野とその特徴

平野は広い土地が確保しやすいため、都市が発展しやすくなります。

また、河川が運んだ肥沃な土（沖積平野）が広がるため、農業も盛んです。

- **関東平野（東京・埼玉・茨城など）**

- 日本最大の平野で、都市が発展しやすく、東京を中心に政治・経済の中心地となっている。
- 河川（利根川など）の流域では野菜や米の栽培が盛ん。
- 千葉県では温暖な気候を活かし、落花生やネギの生産が多い。

- **濃尾平野（愛知・岐阜）**

- 木曽川、長良川、揖斐川の「木曽三川」によって形成された沖積平野であり、その肥沃な土壌が豊かな農業を支えている。
- 名古屋を中心に自動車産業や工業が発展。

- **大阪平野（大阪・兵庫）**

- 大阪平野は、淀川の流域に広がる沖積平野であり、古くから水運の要衝として発展。

- **越後平野（新潟）**

- 日本海側の豪雪地帯で、冬の雪解け水が豊富なため、「コシヒカリ」などの米の生産が盛ん。
- 日本海からの湿った空気がぶつかり、冬は雪が多いため、スキー場などの雪を利用した観光業が盛ん。

2. 盆地の特徴と産業

盆地は周囲を山に囲まれた地形で、昼夜の気温差が大きいのが特徴です。このため、果物の栽培が盛んになります。

- 甲府盆地（山梨）
 - 夏は暑く、冬は寒いが、昼夜の温度差が大きいためブドウ・モモの生産が全国トップクラス。
 - ブドウを使ったワイン産業も盛ん。
- 長野盆地（長野）
 - 昼夜の温度差が大きく、リンゴの栽培に適している。
 - 寒冷な気候を利用したそばの栽培が盛ん。
- 京都盆地（京都）
 - 昔から盆地の特徴を活かして野菜栽培が発展。京野菜（九条ネギ・聖護院かぶらなど）が特産品。
 - 古都としての歴史を活かし、観光産業が発展。

3. 気候との関係

日本の平野や盆地の気候は、山脈の影響を受けることが多いです。

- 日本海側の平野（越後平野など）

- 日本アルプス・奥羽山脈が日本海からの湿った空気を遮るため、冬は豪雪地帯になる。
 - 雪解け水を活かした米作りが発展。
 - 太平洋側の平野（関東平野・濃尾平野・大阪平野）
 - 冬は乾燥し、晴れの日が多い。
 - 交通の便がよく、大都市が発展。
 - 盆地（甲府盆地・長野盆地）
 - 周囲を山に囲まれているため、フェーン現象で夏は暑く、冬は寒い。
 - 昼夜の温度差を活かした果物の栽培が盛ん。
-

まとめ

- ✦ 平野は広い土地と河川の恵みで農業が発展しやすく、都市も発展しやすい！
- ✦ 盆地は昼夜の気温差を活かして果樹栽培が盛ん！
- ✦ 山脈が気候を決め、農業や産業に大きな影響を与えている！

このような視点で学ぶと、試験の問題にも対応しやすくなります。